

おうちで守る
ペットの健康

犬や猫をはじめ、さまざまなペットと暮らしたことがある方はたくさんいらっしゃると思います。彼らの世話には手がかかるとは思いますが、私たちの生活に生きがいや癒しを与えてくれます。

ペットとして一緒に暮らす動物たちの多くは、野生では生きられません。私たちと交わり、暮らしていく運命にあるのです。ペットの体調管理も飼い主の役割の一つ。たまたま最近ではペットも人間と同じく寿命が延び、高齢化が進んでいます。

動物たちは言葉が話せないのでも、体調が悪くてもそれを伝えることができません。私たち人

体調管理は



イラスト・奥原紗織

触れ合いで異常早期発見

間は盲校から、彼らの様子に気が付けていく必要があります。には、動物病院で来院したたが健康なときからいらしていた

ただけなら、もっと複雑な生活を送れると考えます。動物病院・獣医師の団体「Team HOPE（チームホープ）」の会員の病院では、人間と同じく、予防医療にも積極的に取り組んでいます。

また、家庭でも日頃から動物たちの世話をすること、早期に異常に気付くことが大切です。「うんちが緩い」「おしっこが頻りに多い」なども動物が発するシグナルです。また、今は家の中で飼われているペットがほとんどです。なでたり抱き上げたり、日頃から常に触れ合っていることで、異常があっ

た際に早く気付くことが出来るでしょう。

触った際に痛がったり、嫌がったりすれば要注意。目やにがいつもより出ていたり、毛が抜けやすかったりする際も気をつけなくてはなりません。

具体的にどういった場合か注意すればよいでしょうか。ペットのヘルスケアについてお話していきます。

× × ×
ペットの予防医療を勧める獣医師大田 直樹さんが、家庭でできる健康チェックを紹介しています。

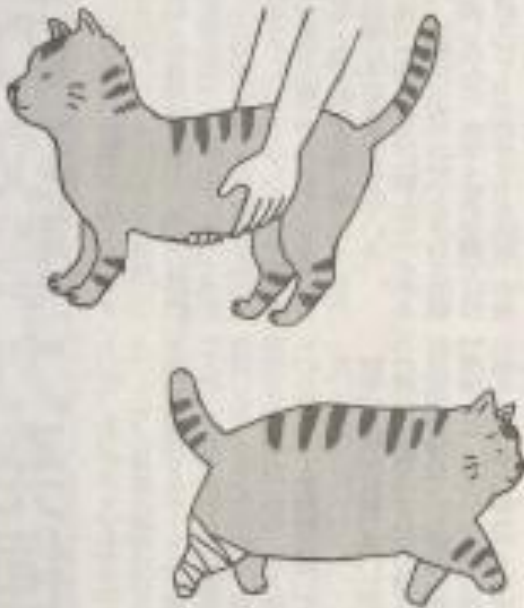


おたか・じよびこ ーおしよは学生
まれ。名古屋出身
専攻「Team HOPE（チームホープ）」代表として、ペットの予防医療の普及に努め、大山動物総合医療センター代表。

おうちで守る ペットの健康

おうちのペットが「こり」もよく元気がないな」と思ったら要注意です。元気がおちたことにはいろいろ原因がありますが、思切らなほど腹を膨らませたり、吐き出し、心拍が速い様子が見られたら、心臓などの循環器の疾患を疑いましょう。病院では検査する子もいるので、自分で様子を見ておいて、必要に応じて正確な診断が可能です。

元気がないと要注意



イラスト・藤原紗穂

日常分かれれば診断正確に

体重が劇的に増えるのも、困りものです。胸郭を触って肋骨を隠せるかなど、BCS（ボディコンディションスコア）と呼ばれるチェック法があるので、

日頃から体重の変化に気を配ってあげるとよいでしょう。

大腸が痛くなったり関節炎が出たりと、腹に問題が出ます。また、食事が適切でないために肥満傾向になる場合もあります。たまたまは誤って栄養価の高い食事を与え続けていると、相談などで解決できることも多くあります。

逆にやせる場合も、深刻な原因が予想されます。イヌやネコには、腹壁内に腫瘍がみられる場合や、消化器系のがんが多く見られます。たくさん食べるのに栄養失調状態になる吸収不良症候

群などもあり、これは「食事療法」などで改善させます。

ネコに多いのが、膵臓腫瘍や糖尿病です。水や食事の摂取量に特に注意しましょう。たくさん水を飲むようになったら疑ってあげてください。

たがネコは多関節炎の場合も多く、一匹の軟水や食事の量が分りにくいことがあります。注意深く、見てあげましょう。

異物ののみ込みなども、死につながる危険があります。ひも状の異物は、腸管に穴が開くなどして死ぬこともあります。何かおかしい物事のみ込んだら、すぐに動物病院に相談してください。

（チームホープ、大山動物総合医療センター代表・太田麻悠）

おうちで守る
3 ペットの健康

ひんやり抜け毛や、皮膚の病気にかかるペットが増えています。イヌやネコはほとんど死にたくないで、毛離れをしても、皮膚が荒れてしまえば、感染や腫瘍の恐れがあります。

かといって、シャンプーをし過ぎても皮膚を傷めるのでいけません。湿度や暑さが高いと皮膚の病気がかかる恐れが高くなるので、夏場などは日陰を好むようにしてあげよう。夏場の暑さ、湿度のリスクも、避ける必要があるのであります。

人間と同じく、アレルギーの症状も増えています。目に限り

や充血がある、目やにがたまり、つかいて痛痒を催していることも、た高齢になると水晶体の硬化症や白内障の場合、自分で引取り、白内障や緑内障、まぶたなども増えてきます。いつもと

いつもと違えば相談を



イラスト・藤原紗由

目の様子が違うなと思ったら、獣医師に相談してみてください。アレルギー性鼻炎や鼻水も、アレルギー症状や重大な感染症の可能性が疑われます。高齢の犬などは、歯の根っこが腐って鼻の奥の副鼻腔に溜りがたまることもあります。放置すると動物病院で診てもらいましょう。たまたま中には病気が耳の中、耳や鼻に「草の実が入っていた」なんてこともあるので、診察してみないと、分からないものです。

歯も、特に歯の奥の小さな大臼歯では深刻な状況になる場合があります。歯石がたまって歯周病になり、時には眼下部の皮膚が破れて穴が開くケースも見受けられます。イヌ用やネコ用の歯ブラシや歯磨きペーストで日々、磨いてあげることが予防につながります。小さいうちから少しずつ慣らせば、次第に歯磨きを嫌がらなくなります。

耳が伏せた形をしているペットは、耳の中の病気にかかることがあります。中にゴリゴリがでたら、引っかいたりしているうちに血腫がでたりします。耳の中からいとも通つ臭いがある場合は、獣医師に相談してみよう。(チムホープ、犬山動物総合医療センター 代表・太田源慈)

おうちで守る
ペットの健康

病院にペットを連れてきてもらっても、日頃から様子を見ておくわけではないので診断が難しい場合があります。何かあったときだけではなく、普段から接していれば、病気を未然に防げるかもしれません。ペットも予防医療の時代です。

獣医師らで作る団体「Team HOPE(チームホープ)」では、ペットの飼い主と獣医師の間でよりスムーズな意思疎通が図れるよう、簡単な質問項目が書かれた「ウェルネスチェックシート」を作りました。この共通の問診票に受診前に書き込

ペットの幸せは人の幸せ



イラスト・島原紗織

日々のチェック、健診も

人でも動物でも、早く正確に診断できるものになります。

人間と同じく動物も早く病気が見つければ、重篤になる前に

対処でき、早く治ります。私の病院では日頃から気候に足を運

んでもらえるよう、「予防検」をとりました。予防検や健康診断の際、病気の動物たちと一緒に待つ必要がないよう配慮しました。

健康診断もお勧めです。費用はかかりますが、ペットの健康状態を確認し、早期に体の不具合を発見するのに有効です。

ペットが外で暮らしてきただけで、本と文化が違う欧米では、常に触って抱きしめてあげる習慣があるため、異常が早く見つかるようです。日頃からのケアが、当たり前にあるのです。

日本ではペットを家人化してかわいがる傾向が見られますが、ペットは動物。その種が必要とする栄養や健康な暮らし方に配慮する必要があります。人間がうれしいことが、必ずしも動物の幸せではない場合があるからです。

寿命も人間より短いのが普通。後からやって来て先に死ぬことを念頭に置いて日々、接していく必要があります。

ペットの幸せは、飼い主の幸せにつながります。「人と動物に優しい」社会を目指して、獣医師も努力が必要だと思えます。

(チームホープ、大山動物総合医療センター代表・太田直樹)